

去る6月30日、生花小売り大手の(株)日比谷花壇(本社東京都港区、社長宮島浩彰氏)は、東京湾内で同社初の海上葬・散骨を実施した。当日、遺族・会葬者とともに乗船し、4時間半にわたるセレモニーを追った。

日比谷花壇が、東京湾で海上葬・散骨を実施 故人の思いを遺灰に託した4時間半

梅雨空のもと、東京・晴海の「朝潮小型船のりば」に、喪主である故人の妻と会葬者の計18人が集まった。正午前、クルーザー「LENNON」(定員50人)へ乗船、船長による航路説明などがあったのち船は棧橋を離れ、散骨まで約30分の航海に出た。

当日のコースは、(1)散骨ポイントまでの航路上で「海上葬」、(2)羽田空港沖合いにて「散骨」、(3)お台場海浜公園沖にて「会食」、という3つのセレモニーを組み込んだプラン。料金はクルーザー(チャーター料)、料理、サービス料など込みで約50万円。

喪主あいさつ、弔辞に続いて、散骨は船尾で行なわれた。喪主がまず、海水に溶けやすい小袋に小分けした遺灰を抱

えながら待機。会葬者は1人ずつ、花びらを海に投げ入れたのち、喪主より手渡された遺灰入りの小袋を破いて撒いた。会葬者全員が散骨を終えると、喪主も同じように遺灰を撒き、最後に用意していた花束を海中に高く投げ入れた。

「希望通りの送り方ができて、本当に嬉しかった」とは、帰港直後に行なわれた喪主あいさつでの言葉。その声音はやり遂げた達成感からか凛とし、そして明るかった。

喪主から事前相談を受けていた日比谷花壇は、「親しい人だけで送ってほしい」と希望した故人の思いを叶えるため、この4月よりサービスを開始した海上葬と散骨のセットプランを提案。喪主は旅行が趣味だった故人のため、外国へと繋がる海への散骨を決めたという。

■当日のスケジュール

| 時刻 | 内容 |
|-------|--------------|
| 11:40 | 乗船 ② |
| 11:45 | 航路・葬儀の説明 ③ |
| 11:50 | 出港後、喪主あいさつ |
| 11:52 | 別れの言葉 (4人) |
| 12:05 | 献花 ④ |
| 12:12 | 散骨ポイントへ航海 |
| 13:00 | 散骨 ⑤ |
| 13:47 | 黙祷 ⑥ |
| 13:50 | 散骨ポイントを3周巡回 |
| 14:15 | お台場海浜公園沖 |
| 14:25 | 献杯・会食 ⑦⑧ |
| 15:35 | お台場発 |
| 15:55 | 故人を偲ぶ映像の上映 ⑨ |
| 16:05 | 帰港後、喪主あいさつ |
| 16:10 | 下船 |

- 総合プロデュース (株)日比谷花壇(ライフサポート事業部)
- 葬儀進行 (株)アーバンフューネスコーポレーション
- クルーザー配船 (株)ハウスボートクラブ



①東京・晴海にある「朝潮小型船のりば」



②故人が指名した友人を含む遺族18人が乗船



③船長が航路説明を行なった



④故人が好きだった絵の前に、バラを献花



⑤羽田空港沖合で、遺灰は花びらを投げ入れてから撒かれた



⑥黙祷を捧げる間、鐘が10回鳴らされた



⑧お台場沖で、ちらし寿司やオードブルなどを味わう



⑦故人の又いとこによるあいさつのち献杯となった



⑨故人のありし日の姿を偲ぶ。モニターを前に思い出を語る喪主



⑩当日の航行ルートが書き込まれた海図と散骨証明書(提供:ハウスボートクラブ)